

トピックス



大阪市北区天満橋 1-8-75 桜ノ宮合同庁舎

TEL 050-3160-6763

<http://www.rinya.maff.go.jp/kinki/>

保護林の新設・拡張等に向けて ～令和4年度保護林管理委員会の開催結果から～

【計画課】

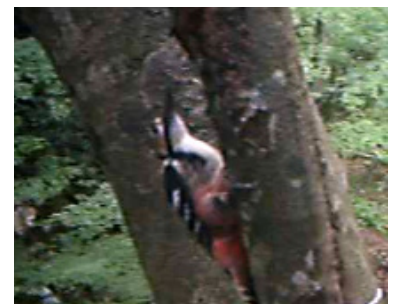
国有林野事業では、原生的な森林や希少な野生生物の生息・生育環境に必要な森林を「保護林」に設定して厳格に保護・管理しており、近畿中国森林管理局管内には、80か所、約2万haの保護林があります。さらに、保護林と保護林を樹林帯でつなぐ「緑の回廊」を設定しており、当局管内には、3か所（白山山系、越美山地、東中国山地）約4万3千haの緑の回廊があります。保護林及び緑の回廊は、管内国有林野面積の約2割を占め、生物多様性の保全上、重要な地域となっています。

各森林管理局では、保護林や緑の回廊を適切に保全・管理するための意見聴取の場として、学識経験者等からなる保護林管理委員会を設置しています。当局では、12月7日（水）に、令和4年度の会議を開催し、保護林の新設・拡張や緑の回廊の拡張などを中心に審議をしたので、その概要を報告します。

1 保護林の新設・拡張等について

保護林の新設・拡張等については、4案件を審議しました。このうち、令和6年4月には^{あかさい}赤西国有林（兵庫県宍粟市）での希少個体群保護林の新設と、^{おおでし}大越国有林（和歌山県新宮市）の希少個体群保護林の拡張を予定しています。赤西国有林で実施した調査では、胸高直径100cmを超える天然スギのほか、トチノキやシオジ等の広葉樹の巨木が多数確認されたほか、サワグルミやシオジの溪畔林も確認されました。大越国有林については、保護林に隣接するモミやアラカシ等の暖温帯の天然林を保護林の区域に含めるものです。

令和7年4月には、^{みかわやまおく}三川山奥国有林（兵庫県美方郡香美町）への生物群集保護林の新設と、^{みずやま}同町水山国有林の既設保護林の統合・拡張を予定しています。三川山奥国有林は、過去の委員会でも保護林の資質が高いと指摘されており、今年度の調査の結果、多種多様な希少野生生物と、それらを育むブナ群落、ヒノキーシャクナゲ群落、兵庫県では希少なヒメコマツ群落等の豊かな森林が確認され、希少な生物種のホットスポットであることが確認されました。また、大面積（約370ha）の区域設定であり、冷温帯から暖温帯にかけての自然植生の垂直分布が確認できる森林を一体的に保護できる点なども委員から高く評価されました。



オオアカゲラ（三川山奥国有林）



巨大天然スギ（赤西国有林）

予定年	区分	設定後の名称	所在地
R 6	新設	赤西スギ・トチノキ・シオジ等希少個体群保護林（仮）	兵庫県宍粟市赤西国有林
R 6	拡張	大越モミ・ツガ・アラカシ等遺伝資源希少個体群保護林	和歌山県新宮市大越国有林
R 7	新設	三川山奥生物群集保護林（仮）	兵庫県美方郡香美町三川山奥国有林
R 7	統合・拡張	木地屋敷・水山ブナ・ナツツバキ希少個体群保護林（仮）	兵庫県美方郡香美町水山国有林

これら4件の新設・拡張等の素案（基本的な考え方）について、委員多数の賛同を得て、了承されたことから、来年度以降の森林計画の策定に向けて、保護林設定の準備を進めているところです。

なお、水山国有林については、周辺にも自然度の高い天然林が分布するという指摘があり、赤西国有林については、溪畔林を含めた区域設定を求める意見があったことから、これらの意見等を踏まえて、素案の区域を見直しています。

2 東中国山地緑の回廊について

兵庫県、鳥取県、岡山県の県境稜線部に位置する「東中国山地緑の回廊」については、^{おうぎのやま}扇ノ山国有林（鳥取県鳥取市）における区域拡張（ブナ天然林等約200ha）の審議が行われ、異論なく了承されました。平成18年度の同回廊設定以降、初の区域拡張となります。

また、昨年度に策定した、当回廊内の人工林の取扱い等に係る行動指針及び行動計画に基づいて、今年度実施した現地調査の結果や、それに基づく国有林のゾーニングや施業方法の見直しの考え方等を、事務局から説明しました。

3 報告事項等

その他の案件として、保護林内で実施される公共事業等に係る2件の審議を行い、いずれも了承されました。また、報告事項として、個別の保護林・緑の回廊等に係る取組等について説明しました。報告した取組のいくつかを御紹介します。

○「^{くろこ}黒河の湿原植生」の保全対策

「福井県のすぐれた自然」に選定されている^{くろこやま}黒河山国有林（福井県敦賀市）の湿原植生について現地調査を行い、ニホンジカの食害による植生の変化が認められました。この結果を踏まえ、ゾーニングを見直すとともに、福井森林管理署と植生保護柵の設置等について検討を行っています。

○^{こせぬま}古生沼の現地確認と植生保護柵のメンテナンス作業

兵庫県の^{ひょうのせん}氷ノ山山頂付近に位置する古生沼（^{しかのせんおくやま}四ヶノ仙輿山高地湿原等希少個体群保護林内）の乾燥化について、学識経験者の同行を得て兵庫森林管理署と現地確認を行ったほか、地元のボランティア団体とともに、植生保護柵のネット上げや補修作業を行いました。

○^{かまがみね}釜ヶ峰アベマキ巨木林のナラ枯れ被害対策ほか

釜ヶ峰アベマキ・アカマツ希少個体群保護林（広島県庄原市）では、令和元年頃から、カシノナガキクイムシによるナラ枯れ被害により、保護対象種であるアベマキ等の枯死が生じていることから、令和3年度から（国研）森林総合研究所四国支所の指導等を得て、広島北部森林管理署が防除を行っています。令和4年度には、歩道沿いの大径木について、カシノナガキクイムシの穿入孔が確認される高さ6mまでシート被覆を行いました。今後は、防除を徹底するための追加被覆や、アベマキの次世代育成を目的とした、林冠ギャップへの補植等について検討していきます。

以上、今年度の保護林管理委員会の概要について御紹介しました。国有林として生物多様性の保全を担うべく、これからも保護林や緑の回廊等の適切な保全・管理に努めてまいります。



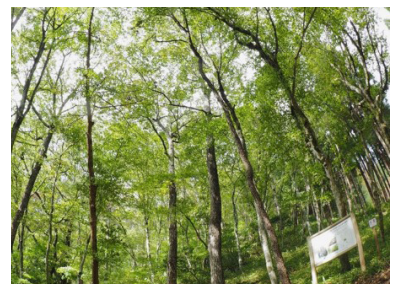
拡張区域のブナ林（扇ノ山国有林）



黒河の湿原植生の状況



メンテナンス作業の様子（古生沼）



純林の様相を呈するアベマキ巨木林



シート被覆の状況

近畿地方環境事務所と合同で防災訓練を実施しました。

【企画調整課】

近畿中国森林管理局では、近畿地方環境事務所と合同で1月24日(火)、防災訓練を行いました。訓練の内容は避難訓練、消火訓練及び通報訓練を実施しました。



毛馬桜之宮公園に避難した様子

避難訓練は、全職員が参加して震度6強の地震が発生し電気設備の漏電により庁舎内で火災が発生したため、隣接する毛馬桜之宮公園に避難するという設定で行いました。

避難後、全員が無事避難したことを総務企画部長が確



消火器を使用した消火訓練

認し局長に報告を行い、局長から訓練について普段から災害に備えておくことが大事であると講評があり終了しました。

続いて大阪市北消防署の職員の指導のもと、訓練用の消火器を使用して初期消火の訓練と119番通報の訓練を行いました。

災害は何時発生するか予測できませんが、今回の訓練を活かし、日頃から災害に対応出来るよう努めてまいります。



衛星電話の説明

「令和4年度 林業事業体等との意見交換会」を開催しました。

【資源活用課】

近畿中国森林管理局では、12月1日(木)、造林・素材生産請負事業体等を対象に、森林・林業基本計画に基づく「新しい林業」の推進、森林整備事業の円滑な実施を図ることを目的として、国の施策と国有林の森林整備事業に関する情報を提供し、オープンな場で質疑応答や情報交換を行うことを内容とした意見交換会を開催しました。



局長の挨拶

意見交換会は、近畿中国森林管理局大会議室をメイン会場とし、管内各森林管理署等の会議室をサブ会場としてWeb会議システムで中継、更に林業事業体等が直接Web会議に参加することも可能としたハイブリッド形式で開催し、管内各地から事業体等37社が参加しました。



説明する森林整備部長



会場の様子

関係資料による情報提供後に行った意見交換では、「新しい林業」の推進として展開している森林整備事業や立木販売の発注内容等に関して、受注者として適切な見積りが行えるよう、公表内容の充実を要望する等の意見が出され、円滑に事業推進を図っていくための貴重な情報を得ることが出来ました。

当局では今後も引き続き、受注者となる林業事業体等の皆様の意見を参考に計画した事業を確実に推進するよう努めてまいります。

今回の意見交換会の概要や資料については、以下URLをご覧ください。<https://www.rinya.maff.go.jp/kinki/hanbai/20221201.html>



令和4年度「滑マツ保存会」と合同での現地視察を行いました。

【山口森林管理事務所】

12月13日（火）に滑山国有林 15 林班外において、滑マツ保存会^{なめら}*のメンバーと山口森林管理事務所職員総勢 26 名により、滑マツの視察や、令和2年度の森林・林業交流研究発表会で発表した「滑マツ稚樹育成における刈出し効果に関する考察」の調査プロット及び松枯れ対策事業として樹幹注入を行っている現場の視察を行いました。



保存会伊藤会長と元山所長の挨拶



樹幹注入の様子

滑マツ保存会伊藤会長及び元山所長の挨拶の後、滑マツを視察しました。なお、滑マツとは、滑山国有林の中腹から尾根にかけて生育している樹齢 200 年以上の胸高直径 60cm 以上で形質良好なアカマツの通称です。「滑山アカマツ・ブナ・コナラ等遺伝資源希少個体群保護林」に

設定されている調査プロットでは、平成 18 年からアカマツ稚樹の刈出し作業と立地条件等によって稚樹の発生・生育にどのような違いがあるかを検証するための調査を行っており、現地では今年度の調査内容を説明しました。

また、視察の日に樹幹注入が行われていたことから、実際の樹幹注入作業について請負業者から説明を受けました。当日は天候にも恵まれ、気持ちの良い汗をかき現地視察は終了しました。



意見交換会の様子

現地視察後に、令和元年度に伐採した滑マツの枯損木を使用し、令和4年11月14日に供用が開始された山口市徳地総合支所の講座室に会場を移し、意見交換を行いました。

滑マツ保存会のメンバーでもある総合支所の末綱氏から滑マツが製品として使用されている施設や PR 活動等について説明をいただいた後に、滑マツの後継樹育成等について意見交換を行いました。メンバーからは「刈出し作業を行ってきたことにより、後継稚樹が大きくなり将来的に滑マツになる木が育ってきている」「プロット内の調査や刈出し作業は今後も継続して行えばよい」「地かき作業により落ち葉を取り除き、種が発芽しやすい環境を整えるべき」「照度が少ないところは周囲の広葉樹を伐倒すればいいのではないのか」「樹幹注入は区域を広げ保存すべきアカマツを選木して実施すべき」等の意見が出されました。

今後も、滑マツ保存会のご意見等を踏まえながら、滑マツの保全・再生・PRに取り組んでいくことを確認しました。

※平成 26 年 3 月 6 日に県内の有識者を中心に滑マツの保全を目的に発足。その保全に必要な措置に係る活動及びこれらの活動と一体となって実施する滑マツに関する普及、宣伝や保全活動等の理解促進等に資することを目的としています。



集合写真

岡山県ドローン操作研修会に参加しました。

【岡山森林管理署、森林技術・支援センター】

12月22日(木)、岡山県森林研究所(岡山県勝央町)において「岡山県ドローン操作研修会」(主催者:岡山県)が開催され、岡山森林管理署職員2名と森林技術・支援センター職員2名が講師として参加しました。



岡山県林政課掛屋総括参事の挨拶

岡山県は、森林資源情報の一元的・継続的な管理を目的に森林調査用ドローンを各県民局等に配備したことから、県職員がドローンを用いた現地調査ができるよう、職員全体の技術向上を進めるため実施されたものです。

午前は岡山県林政課による「ドローンの利用・飛行手続きの説明」に続いて、「国有林におけるドローン活用事例・技術開発事例の紹介・説明」を行い、午後からは操作実習を班に分れて行い、「基礎操作、撮影操作の説明」を行った後、操作実習を分担してサポートしました。



森林研究所による取組事例の紹介



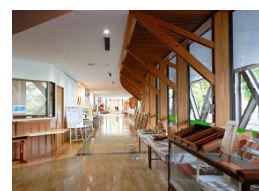
森林技術・支援センター職員による操作実習(基礎操作)

研修会の最後には、岡山県森林研究所における「ICTスマート林業」に向けての取組として、ドローンを活用した研究、オルソ画像の作成の説明が行われました。

今後も地域ニーズを把握しながら、岡山県と協力・連携し、新しい技術を取り入れた地域林業の活性化に貢献したいと考えています。

お知らせ

森林のギャラリー(局庁舎1階)



【技術普及課】

○2月6日(月)～3月1日(水)の展示は、一般社団法人 全国燃料協会、山梨県 大阪事務所、静岡県 大阪事務所です。ギャラリーの展示内容は下記の局ホームページでお知らせしています。

<http://www.rinya.maff.go.jp/kinki/policy/business/sitasimou/gallery/index.html>



○近畿中国局フォレスター NEWS

近畿中国森林管理局では、管内におけるフォレスター活動を紹介した『フォレスター NEWS』を発行し、情報共有を行っています。

<https://www.rinya.maff.go.jp/kinki/sidou/foresuter/katudou.html#> 近畿中国局フォレスター NEWS



【三重森林管理署】

○大杉谷国有林からの手紙(58通目)を1月に発行しました。これまでのバックナンバーを載せていますので、ぜひご覧下さい。

https://www.rinya.maff.go.jp/kinki/mie/information/oosugitegami_058.html



【独立行政法人農林漁業信用基金】

○公的な機関が林業・木材産業に必要な資金の保障を行います。制度の概要、活用事例などはこちらをご覧ください。<https://www.jaffic.go.jp/guide/rin/index.html>



花草木

【ボケ】

ボケ（学名：Chaenomeles speciosa）は、バラ科ボケ属の落葉低木です。日本に自生するボケは、クサボケといわれる同属の植物です。

ボケの原産地は中国大陸で、日本へは平安時代以前に渡来し帰化しました。元々は「モケ」「モッケ」「ボックワ」と呼ばれていましたが、時代の移り変わりと共に変化し、「ボケ」と呼ばれるようになりました。漢字の「木瓜」は、実がウリに似ており、木にウリがなったようにみえることからつけられたそうです。

以前はほとんど園芸には用いられてきませんでした。大正から昭和にかけて栽培されるようになり品種改良も盛んに行われて一般化し、現在では、200を超える品種が生み出され、庭木や生垣、鉢植え、切り花と広く利用されています。

ボケの花言葉は、『先駆者』『指導者』『平凡』『退屈』『早熟』『熱情』『魅惑的な恋』『妖精の輝き』等多くありますが、どれも由来や意味は伝えられていません。ただ、「先駆者」という花言葉は、織田信長が家紋の五つ木瓜（いつつもっこう）としてボケを用いていたことに由来しているとされています。



市内で見つけたボケの木

我が署のスタッフ

岡山森林管理署

芦谷 初樹（あしや はつき）（平成31年度採用）

【現在取り組んでいる仕事は？】

業務グループに所属し、主に国有林内で行う森林整備事業（主伐や間伐）の発注事務を担当しています。事業発注にあたっては、事業予定地の林況確認や立木調査のために、事前に現地に行くことが多々あります。また、事業実行中や完了後にも現地に行くので、森林整備が行われる前後の林況を確認することが出来ます。自分が携わった事業の成果が見えるので、やりがいがあります。

【職場の雰囲気は？】

岡山森林管理署は比較的職員数が多い署ですが、みんなで協力しながら業務を進めています。

特に、立木調査やイベントの際は担当業務の垣根無く取り組んでいます。また、やりたいと思ったことに関しても相談したら挑戦することができ、スキルアップにつながっています。

【林野庁の魅力は？】

地域に散在する国有林を管理経営するのが主な業務になりますが、その中でも森林整備や治山、林道、森林環境教育等様々な業務があります。森林調査から事務仕事まで幅広い業務があることに魅力を感じています。



林内でポールを使って勾配を測定しています。

森林事務所紹介

ちず
智頭森林事務所 (鳥取森林管理署)

森林官 江間 薫 (えま かおる)

智頭森林事務所は鳥取県南東部の智頭町に所在する国有林8団地約3,181ha、官行造林2団地約311haを管轄しています。



スギ天然木 (沖ノ山国有林)

智頭町は面積の約93%を森林が占め、このうち国有林が占める割合は約17%です。古くから人工林施業が行われ、智頭杉とよばれる良質のスギが生育する林業が盛んな地域です。国有林は智頭町を取り囲むように点在し、町の中心部は標高約200mですが、^{おきのやま}沖ノ山国有林をはじめ国有林の多くが標高1000m級の深山にあります。

沖ノ山国有林には樹齢300年といわれるスギの天然木があるほか、スギ、ブナ、トチノキを主体とした保護林を設定しており、樹高30m近く、直径1mを越す大木が林立しています。

沖ノ山国有林および^{なぎさん}那岐山国有林は^{ひょうのせんうしろやまなぎさん}氷ノ山後山那岐山国定公園に指定されており、春から秋にかけて素晴らしい景観や植物を楽しみに多くの登山者が訪れます。また、沖ノ山国有林の一部は森林セラピーロードになっており、森の中に身を置き歩行や運動、リラクゼーションなどで保養効果を高める森林浴を楽しむことができます。

希少な遺伝資源を保護・管理することや多くの方に自然豊かな森林に触れていただくなどが国民の要請に応える国有林の役割の一つとなっています。智頭町内の森林の2割近くを占める国有林の果たす役割は大きく、生産事業や立木販売事業が継続して実施されており、監督業務が森林官の主な業務です。また、当地域は中国地方有数の豪雪地域でもあり、冬季の林内は積雪3mにもなる厳しい環境です。そのため、雪解けのゴールデンウィーク明けから11月までの間に各種事業を完了させる必要があり、財産区や町、県など関係機関との調整や適切なスケジュール管理が求められます。

時には巡検中にクマのねぐらに遭遇したり、標高差が激しい山道を吹雪の中歩くなど、大自然を感じながら業務を遂行しています。



ブナ林 (沖の山国有林)



標高1,240mの那岐山国有林山頂から望む瀬戸内海

シリーズ『国有林 最前線！』

G7広島サミットを見据えた国有林の取組

広島森林管理署

広島森林管理署は、広島県北東部を除く太田川流域や瀬戸内海側に所在する約 28,700ha の国有林及び約 1,400ha の公有林野等官行造林地を管理経営しています。

管内は小規模な国有林が分散していますが、奥地水源地域に所在している森林では広島市・福山市など南部沿岸地域の都市への水がめとして水源涵養機能の発揮や、都市近郊の人家や道路に隣接して所在している森林では山地災害防止機能の発揮、また瀬戸内海国立公園、西中国山地国定公園区域内の宮島、恐羅漢山などに所在している森林では保健機能の発揮など、公益的機能の多面的な発揮が期待されています。

広島市などには広葉樹を中心とした都市近郊林が多数散在し、地域の良好な景観を形成して憩いの場となっていることから、レクリエーションの森として維持管理しています。特に、広島市街に近接した宇品島にある宇品山^{うしなやま}国有林では、海岸の遊歩道沿いの森林や珍しい地形があることから、自然観察教育や地域住民の散歩コースとして親しまれています。また、市街地へのアクセスが良好なことから国有林界まで宅地開発が進んでおり、国有林に対する要望等が多く寄せられているところです。

このような中、令和5年5月に宇品島にあるグランドプリンスホテル広島において、G7広島サミットの開催が決定したところですが、広島森林管理署では宇品山国有林がサミット開催に支障を及ぼすことのないよう、枝払いなどの森林整備を実施しています。クレーン車や高所作業車を使用しつつ、林齢約150年のクスノキやカシ類の大径木の枝をチェーンソーで一本ずつ丁寧に切断しています。

高所作業であるとともに枝の落下など大変危険を伴う作業ですが、安全第一で実施しています。



高所作業車を使用した枝払い作業